

ゼロエネ住宅を

考
える

健康で快適な暮らしのためには、衣食住全ての充実が不可欠です。食生活への関心の高さに比べると、住

生活への関心はまだまだ不十分です。住宅は単に寝起きする場所ではなく、生活の基本となる場所。そして住宅のさまざまな用途に、日本全体のエネルギーの15%程度が消費されています。身近で忘れがちな住まいの大しさに、いま一度目を向けてみませんか？

2010～15年に新築を建てた人に「はじめのこだわり」と「居住後の満足度」についてアンケートしました。「間取り」や「デザイン」については、「はじめからしっかりとこだわって、居住後も満足できます。一方で、「冬の暖かさ」「夏の涼しさ」へのこだわりは比較的強いのですが、居住後の満足度は高くありません。また「省エネ」ははじめから関心が薄く満足度も低い、という結果になりました。

家を建てるとき、間取りやデザインといった「目に見える」要素が大事なことは誰にでも分かります。し

かし、住んだ後で暖かさ、涼しさが不十分では、せつかりに、電気やガスなどのエネルギーコストが高くて困っている人が少なくありません。

住宅の性能を向上させることで、冬暖かく夏涼しい快適な生活を、より少ないエネルギーで実現できます。省エネは日本の化石燃料の輸入を削減し、二酸化炭素(CO₂)排出量も減らして、地球温暖化の抑制につながります。なによりエ

ネルギーにかかる「お金」を節約でき、日々の生活を楽にしてくれます。本連載では、健康で快適な暮らしを永く実現する、新しい住宅のカタチを一緒に考えていきましょう。

（東大准教授）

エネルギー消費量が実質的にゼロになる省エネ住宅「ゼロエネルギー住宅」の普及が進められています。エネルギーと環境の問題に詳しい前真之東大准教授に、省エネと住宅を考える上で大切な知識や視点を紹介してもらいます。

【1】省エネで健康快適実現

新しく家を建てた人の「はじめのこだわり」と「居住後の満足度」について



(数値は、+3～-3の7段階評価の平均値。
筆者研究室によるアンケート結果)

はじめのこだわり



まえ・まさゆきさんは広島市生まれ。東大大学院工学系研究科建築学専攻博士課程修了。博士(工学)。

1級建築士。省エネルギーで、快適性の高い住宅の技術と設計手法の開発に取り組む。著書に「エコハウスのウソ」など。